

事業計画書

事業名	『母たちのスキルアップ支援』とスキルの活用
実施場所	主に沼津市内
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 2020年4月1日～2021年3月31日

◎事業概要

※事業の概要を100～200字で簡潔に記載して下さい(事業の紹介などで使用します)。

障害を抱える子ども達の一番身近な存在である母親達が研修を重ね、各種スキルを持つ支援者となり、プレジョブや創作活動を通じて子ども達の能力や可能性を引き出します。スキルを活かした地域との交流で、子ども達の役割や選択肢を増やしながらノーマライズなコミュニティを拓けます。

◎目的

※何を目的として実施する事業であるか(事業を行うきっかけ(地域の問題点や課題、社会背景など)や、課題解決のためにどんなことが必要と考えるか)を記載して下さい。

1. 社会背景や課題

障害を抱える子どもが増える一方で、個々に合った居場所(施設・就労先等)や相談先が圧倒的に少ない状況です。母親達は学校を卒業した後の我が子の人生に不安を感じています。どこにも相談できずにひとりで悩みを抱え、自らが社会から遠ざかるケースもあり、また、受け入れる側の社会においても接点や関心が少なく感じられます。

障害を抱える子どもの子育ての環境は、周囲の理解や支援の体制によって大きく変わります。どのような障害や特性があって何に困っているのかなど、周囲にあまり知られていないことが課題です。

2. 課題解決のために必要だと考えること

悩みを抱える母達が、これまでの経験を認め合い前向きな気持ちになるようなコミュニティと、親子が安心できる支援体制や環境づくりが大切です。

周囲に現状を知ってもらい、関心を持ってもらうためには、障害に対する理解が広がる場をつくること、社会・まちづくりの活動に参画していくことが必要です。

母親は子どもにとって一番身近な支援者です。

子ども達の能力や可能性を引き出す様々なスキルを身につけることは、母達にとっては活気や楽しみとなり、そして、子ども達にはやりがいや誰かに必要とされる喜びを感じてもらうことができると思います。

スキルを活かした地域との交流は、課題解決に必要なノーマライズなコミュニティを拓けることにつながると考えます。

通年

(5) その他各種勉強会・研修・ワークショップなどに参加

* 2019 年は多数参加できた

2020 年も引き続き参加していく

(6) 各地の障害者施設・事業所・工場などの見学や勉強会

* 2019 年は希望していた施設の半分程度である 10 箇所を見学

2020 年は、新たに開設される施設や事業所での見学・勉強会実施し、参考になる取り組みを学ぶ

3. 【障害を抱える子ども達の作品を基にイベント告知・啓発類を制作】 (デザイン講習)

(目的)

(1) デザイン性の高い作品にさらに付加価値を付け 社会に出す
事で、彼らの才能や特性の周知の機会をつくる

(2) 後の仕事に繋がるようなサポート体制を学ぶ

(対象)

母の会メンバー他

(内容)

(1) グラフィックデザイナーに勉強会を依頼 (5 回ほど)

* 2019 年は勉強会の日数が足りず、データ入稿などの作業を学ぶ
ことができなかった

2020 年は残った課題をクリアしつつ、さらにスキルを磨く

(2) 子ども達の作品を基にした、ポスター・チラシ等の制作

① 『心のままアート展 2020』

* 2019 年は作品を活かしたポスター・チラシ制作はできたが、
データ入稿などの作業は外部委託した

2020 年は全行程を行う

② その他自主イベント

* 2019 年は福祉大会のチラシを作成

2020 年は各種自主イベント計 3 点のチラシを作成する

③ 他団体が主催するイベント

* 2019 年は技術不足もあって実績なし

2020 年は依頼を受けての制作実績をつくる

通年

4. 【子ども達の創作活動と創作意欲に繋がる場づくり】

(目的)

(1) 様々な体験から、個々に合った作業などを発見・発掘する

(2) 視覚・聴覚・嗅覚・触覚など心地の良いものに触れることで、
創作能力を高める

(3) 内に秘めた想像力や空間認知能力を発揮させる

(4) より良い創作活動に欠かせない余暇の時間を充実させる

(対象)

障害を抱える子ども達と保護者や支援者

* 開かれた場にしていき、対象者を増やす

通年

(内容)

・陶芸、書道、絵画、造形、木工、音楽、アロマ、LEGO、
織物、染め物、ステンドグラス、お菓子作りなど

* 2019 年は陶芸、書道、絵画、造形、木工、お菓子作りを実施
2020 年は音楽、アロマ、LEGO、織物、染め物、ステンドグラスな
ど個々の子ども達の興味・関心に対応できるよう創作の幅を広げ
る

5. 【プレジョブ】

(目的)

- (1) 経験のない仕事や、興味を持てる作業に触れる
- (2) プレジョブの連携先を広げ、実際の就労に繋げていく

(対象)

障害を抱える子ども達と保護者や支援者
* 働く姿をより多くの人に見てもらう

(内容)

- (1) 商品や飲食物の販売・接客
 - (2) ものづくり（各地のワークショップなどにも参加）
 - (3) 農作業・料理・手芸・IT・清掃等（作業を細分化し特化する）
- * 2019 年は(1)(2)を中心に取り組み、(3)の実績はなし
2020 年は全ての項目について取り組む
また、プレジョブを通じて、
連携先となる事業所等に障害特性を踏まえた得意とする作業
の内容について伝え、特性と作業がマッチングできるように
情報交換・アドバイスをしていく

通年

6. 【地域に密着した親子参加型の取り組み】

(目的)

障害を抱える子ども達の顔や行動を、地域の方々の記憶に留めて
もらい、防災や社会参加に役立てる

(対象)

地域の方々、障害を抱える子ども達と保護者や支援者

(内容)

- (1) 防災について考える
 - ① 専門家を招いた勉強会
 - ② 知的・身体・視覚・聴覚障害者の現実や、困りごと、身の回りの備えなど意見交換
- * 2019 年はミーティング内や他団体との情報交換はできたが、
専門家を招いた勉強会の実績はなし
2020 年は専門家による勉強会を実施する
また、専門家を交えた地域や企業との連携を図る
(防災対策に取り組むハウスメーカーや流通系の団体など)

(2) 地域の清掃活動などに参加

①親子で清掃活動に参加する事で、地域の方に障害を抱える子どもたちを身近に感じてもらう。

②子ども達にも、綺麗にすることは気持ちの良い事、「人の役に立つ事、必要とされる喜び」を感じてもらう。

*2019年は個々での参加に留まった

2020年は会としてまとまって参加していく

(3) キットパス(※)ワークショップ開催と普及

・障害者雇用を始めて60年目、従業員の7割が障害者である会社の理念『働く幸せ』に賛同し、キットパスを使用したワークショップやイベントを開催。子供たちとお絵描きを楽しみながらノーマライゼーションに触れ、思いやりの心や社会性を育むなど、インストラクターとしての役割を果たす。キットパスを通じて、障害者雇用の推進・支援活動を続ける。

※「日本理化学工業株式会社」の製品

環境に優しく安全な『水溶性チョーク』

*2019年は自主イベント・地域イベント・福祉イベントなどでワークショップを開催

2020年も幅広く地域イベントに参加していく

9/16~9/22
(予定)

7.【心のままアート展 2020】開催(自主イベント、沼津市後援実績あり)

(目的)

(1) アートを通じて、障害を抱える子ども達を身近に感じてもらう

(2) 子ども達の将来の「しごと」や「やりがい」に繋げる

(3) 地域社会、学校・教育関係や企業に取り組みを知ってもらう

(対象)

すべての人

(内容)

(1) 作品・啓発類の展示を中心に、将来のしごとに繋がるワークショップを期間中に開催。芸術に触れながら、障害について現実を知っていただき、身近に感じてもらう。

①障害を抱える人の作品・ストーリー展示

特別支援学校の児童生徒・OB、外部絵画教室等

②障害についての解説・啓発類の展示

書籍・ポスター・マンガ・アプリなど

③ワークショップ

(2017年) シルクスクリーン印刷

(2018年) 山の幸染め・キットパスでバッグ作り

ハンドスタンプアート

(2019年) キットパスのワークショップ

(2020年) 内容未定

(2) 現在支援学校等で学んでいる、就労に向けた作業実習

(木工班・陶芸班・紙加工班・染色縫製班・ピース班・農耕班・園芸班・クリーン班)の紹介をし、卒業後も習得した技術を活かせるように、指導者・技術者に関わってもらい、関係を築きながら、アート展を創り上げる。

* 『心のままアート展』来場者数

2017年700名、2018年1000名、2019年1100名

と少しずつ増加しているものの、実施するイベントの参加者の大半は身内や福祉関係者で、一般の方の参加は難しいのが実状

2020年はオリパラ競技会場が静岡県東部に2箇所あり

オリパラへの注目度の高さを活かして、これまでの私達の取り組みでは満足のいく人数を確保できていなかった「創作活動の参加者」や「作品を観覧する一般の方々」の数を大きく伸ばしつつ、『エイブルアート(障害者アート)によるノーマライズな地域づくり』を進めていく。

(静岡県文化プログラムとの連携)

●内定は2月のため事業実施は未定

●当事業と文化プログラムの申請内容の重複なし

(指導者・制作者)

① 『心のままアート展題字』

県立沼津西高等学校(書道部)

② 『書道作品』

書道家(茶のみ潤さん)

③ 『陶芸作品』

藤枝市陶芸センター(館長:前田直紀さん)

④ 『絵画・造形作品』

アトリエかもめ(野呂美樹さん・杉山幸穂さん)

美術家(田川誠さん)

⑤ 『木工作品』

やまぶき工芸社(永田暢彦さん)

⑥ 『ポスター・チラシ制作』

グラフィックデザイナー(渡邊純さん・矢田美紀さん)

⑦ 『作品額装』

額制作(やまぶき工芸社)・額装(いずみ画荘)

⑧ 『作品撮影』

ミノリフォトワークス(梁充克さん)

◎事業効果

※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。

【 障害理解 】

障害について関心を持って頂くイベントを通じて、ノーマライゼーションや誰もが暮らしやすい世の中への地域の方々の理解が深まる。

【 社会参画 】

障害を抱えていても、素晴らしい能力を発揮したり真面目に作業をするなど、十分に働き手としての力があることを知ってもらうことで、障害者が社会に参加する機会が増加する。

【 雇用創出 】

障害者の特性や能力を活かした作業が増え、将来の「しごと」につながる。

【 コミュニティ構築 】

ノーマライゼーションの理解が進み、地域の中に障害者や支援者などの「居場所」ができる。

【 知識・スキルの向上】

母親のスキルアップにより知識・支援の質が向上し、同じ悩みを抱える母たちなどへのアドバイスがよりの確に行える。

<p>成果指標</p>	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。 一般の方に障害理解を広めるために開催している『心のままアート展』や、他自主イベントの来場者数及びアンケート結果</p>	<p>指標の検証方法</p>	<p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。 2017年からのイベント来場者数の増加比率。アンケート内容。</p>
-------------	---	----------------	---

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

<p>公益性 ・ 必要性</p>	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。 ※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。</p> <p>2016年に『障害者差別解消法』が施行され、誰もが教育や就業、その他社会生活において平等に参加できるよう、それぞれの障害特性や困りごとに合わせておこなわれる「合理的配慮」が求められています。</p> <p>「合理的配慮」の考え方は、より良い社会を築いていく上で、配慮をしてもらう側、する側の双方にとって重要なものだと考えています。私たちが行う事業により、「合理的配慮」への理解促進や実現につなげていきます。</p> <p>母たちは、より専門性の高い指導能力を身に付けつつ、障害を抱える子供たちとの関わりを重ねていきます。その中で、子どもたち個々の特性に応じた作業を見出し、得意分野に焦点を当てた働き手を育てます。</p> <p>子どもたちとの関わりで培った経験に加え、「教え方を教える人」であるジョブコーチの知識を学び・活かします。働き手の雇用環境が改善する事で、障害者雇用の拡大に繋がり、社会全体の課題である働き手不足、社会保障費の問題解決にもつながります。</p>
<p>地域性</p>	<p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。</p> <p>静岡県東部地域では、障害を抱える子どもの保護者が頼れる機関が少なく、専門的な支援サービスが不足していることなど、不安の声は少なくありません。全国的にも障害のある人の創作活動を支援する事業や展覧会などの開催が進んでいます。静岡県においても障害者文化芸術活動支援センターが設立され、障害のある人の文化芸術活動の普及を通して、障害のある人の社会参加と障害や障害のある人に対する理解も少しずつ進んでいます。</p> <p>ただ、静岡県東部地域は県中西部に比べて、障害者アーティストの発掘・育成が遅れているのか、エイブルアートに携わる人が少ない印象があります。</p> <p>子ども達が楽しく参加できる創作活動を通じて、地域の方々による障害理解が進むように、じっくりとノーマライズなコミュニティづくりへの賛同者を増やしていきたいと考えています。</p> <p>行政が全てを支えるのではなく、「出来る事を 出来る時に 出来る人が」の考え方で、障害のあるなしに関わらず、地域住民が交流し、助け・支え合うコミュニティを私たちのできる範囲で実現していきます。</p>
<p>先導性</p>	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。</p> <p>2020年のパラリンピック開催に向けて、近隣市町もノーマライゼーションやエイブルアートに力を入れています。</p> <p>県東部が開催地となるオリパラへの注目度の高さは、これまでノーマライゼーションやエイブルアートに関わりの少なかった地域の方々の理解を大きく進めるチャンスだと考えています。</p> <p>より障害理解のあるインクルーシブな沼津市になるため、私たちのスキルや活動が、少しでも役立てばと考えています。誰もが暮らしやすい優しいまち・何度も訪れたいまち「ノーマライゼーション先進都市ぬまづ」を目指し取り組んでいきます。</p>

<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などによりどのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。</p> <p>発達障害の特性の中には、一度習得した事はきっちりとやる、という優れた働き手の素質があります。プレジョブなどを通して子ども達の働く姿を広く知って頂き、卒業後も社会で必要とされる人として、継続支援を行っていきます。ここで構築した働き手を生み出す枠組みは、私たち母子の世代だけでなく、次世代の母子たちにも引き継いでいきます。</p> <p>子ども達の将来のためだけでなく、保護者である母親たちもやりがいや幸せを感じられる事業となるよう、継続して取り組んでいきます。</p>
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。</p> <p>2017年から2019年にかけて開催した『心のままアート展』では、多くの方々にご来場頂き、たくさんのご支援を頂くことができました。子ども達の将来のしごとに関わる多くのつながりが生まれ、また、地域に密着した関係性を築けています。2019年のアート展以降も、多くの企業・団体・個人とのつながりは広がっています。</p> <p>最終的に「しごと」「居場所」を創っていくためには事業資金はもちろん、人間関係及び信頼関係が重要となるため、今後もつながりを大切に活動を持続します。また、イベント時の効果的な発信・周知に努め、活動の幅を拡げていきます。</p>
<p>活動に対する熱意</p>	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。</p> <p>私たちは、障害を抱える子どもを育てている中で、様々な葛藤や悲観・先が見えない不安など、多くの感情が溢れる日々を過ごしてきました。</p> <p>社会とのつながりが弱かった私たちでしたが、子ども達が学校などで集団生活を送るようになり、自然と同じ想いを抱える仲間との出逢いに恵まれました。同じような苦悩や経験、感情を分かち合うことで、絆が深まり信頼関係が生まれたコミュニティです。</p> <p>素晴らしい仲間や今まで知り得なかった世界観を与えてくれた子ども達に、母たちがスキルアップして楽しく活動する姿を見せたいと思います。</p> <p>今まで、周囲に迷惑をかける度に『ごめんなさい』『申し訳ありませんでした』と謝っていた私たちでしたが、『ありがとう』があふれる環境を、身の回りからつくっていきたくと思います。</p> <p>「ノーマライゼーション」という言葉が使われなくなるほど、その考え方が当たり前になることを心から願い活動を続けて参ります。</p>

◎次年度以降の活動予定

※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。

実施する取り組みの更なる対象者の拡大・対象区域の拡大のために以下を予定しています。

①静岡県障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」との連携

障害者文化芸術活動支援センター「みらーと」は、障害のある人が自由に文化芸術活動を行うための支援拠点です。障害のある人の文化芸術活動への参加意欲を高め、その環境を整えるため、「相談支援」「情報収集・発信」「支援人材の育成」「ネットワークの構築」「発表等の機会創出」「障害者芸術応援隊の設置」などを行っています。

当団体は現在、みらーと主催のセミナーへの参加や情報交換を行っています。

2021年以降も連携した芸術活動を行っていきます。

②静岡県文化プログラムと連携

2021年度以降も継続して実施する予定となっている静岡県文化プログラムと連携し、『エイブルアートによるノーマライズな地域づくり推進事業』を進めます。

また、引き続きアート展に向けてプロの指導者に関わって頂きながら、企業・団体との連携を深めていきます。

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい。

2019年の事業実績の評価と改善点は、実施内容の各項目に記載しています。

2020年度のステップアップ事業では、前年の活動を基盤にし、子ども達の得意な作業に幅広く対応できるよう、母たちも個々に合ったスキルを磨くことにより、さらにスキルアップした支援者を目指します。また、地域での活躍の場を広げられるように事業を進めていきます。

自立に向けた資金確保としては、事業の支援者と協賛社(者)を増やします。

2017年	協賛企業 15社・個人協賛 12名
2018年	協賛企業 50社・個人協賛 32名
2019年	協賛企業 82社・個人協賛 53名
2020年	協賛企業 100社・個人協賛 70名を目標